

令和5年度 国富町立木脇小学校 学校関係者評価書

【学校経営ビジョン】 「目がとどく、声がとどく、心がとどく」教育の実践と教職員の指導力・学校の組織力の向上によって、「自ら学び、豊かな心とたくましい体をもち、自分のよさを発揮しながら、進んで実践する児童の育成」を図る。

4段階評価 4:達成(期待以上) 3:ほぼ達成(ほぼ期待どおり) 2:不十分(やや期待を下回る) 1:改善を要する(期待を下回る)

	評価項目(指標)	具体的目標	学校の自己評価コメント (○:アンケート結果、◇:結果の考察・分析と改善策等)		自己評価	関係者評価	学校関係者評価コメント
進んで学び子を育てる	1 基礎的・基本的内容の定着	○学習5つのきまりを守れていると答える児童が80%を超える。 ○授業がよく分かると思えた児童が80%を超える。 ○学習時間(集中して取り組んでいる時間)が、学年の目安時間を上回った児童が80%を超える。	○児童アンケートで、授業が「よくわかる」「まあまあわかる」を選んだ児童の割合は下学年・上学年ともに93%以上で、目標は達成できている。保護者アンケートでは、「お子さんが授業内容が理解できているか」について、「そう思う」が69%、「とてもそう思う」11%で、約80%の方が肯定的に評価している。 ◇ 学習5つのきまりについて、共通理解し、児童が落ち着いた学習できる環境が整ってきた。分かる授業を目指し、各学年で計画的に学習指導を行ってきた。算数の少人数学習の指導形態の工夫や支援員による個別の学習も児童も自信をもたせることにつながっている。一方で、理解が不十分な児童への支援のあり方や、授業の工夫改善を今後継続して行う必要がある。 ○ 家庭学習については、下学年では目安とする学習時間に達している児童の割合は78%、上学年は57%だった。 ○ 家庭と連携し、課題等の工夫を含めて、家庭学習が児童にとって有意義な時間となるようにする。	2.8	2.9	○児童への対応がよくできている。職員が児童に寄り添い、環境に合わせながら指導しており、ありがたい。 ○授業風景がとてもよく、児童が授業に集中し、友達同士意見を傾聴する姿が好印象だった。 ○職員の授業の進め方、内容が分かりやすかった。 ◇タブレット頼りで、会話が進まない。会話を重点的にすべきではないか。 ○発表や意見を述べる機会が少なかったように感じる。 ○読書がまだまだである。その分外遊びが多ければよいのだが。 ○課題が明確。学校経営に期待している。 ◇ICTの活用が進むほど、活字離れが続いていきそうである。	
	2 学習意欲の向上	○児童がICT機器(タブレット等)の使い方を理解し、学習の内容理解を深めるために自分の考えや意見を伝えることができる児童が80%を超える。 ○考えを伝え合ったり、進んで発表したりすることができたという児童が80%を超える。	○児童アンケートで「タブレットやパソコンを使って学習することができるか」の割合は、下学年・上学年ともに93%を超えている。 ◇ ICTを活用した学習過程の工夫によって、児童のスキルも向上し、児童が進んでタブレット等を活用しながら学習内容の理解を深めることができている。今後は、児童が自分の考えを伝えたり、発表したりすることにICTを活用していく場面を工夫する必要がある。				
	3 読書活動の推進	低学年は月10冊、中学年は月6冊、高学年は月3冊以上読む児童が80%を超える。	○「自分から進んで本を読んでいる」割合 下学年「できている」49%、「まあまあできている」33% 上学年「できている」24%、「まあまあできている」24% 保護者「できている」12%、「まあまあできている」21% ◇ 読書意欲が高まるように、委員会活動を中心として「読書ビンゴ」等の手立てを講じた。イベントの期間は、読書量も増えることから、今後も児童が進んで読書に親しみきっかけ作りを行っていくようにする。併せて、学年の発達段階に合わせた読書活動を行う必要がある。				
思いやりのある子を育てる	1 規範意識の高揚	学校や家庭、地域が連携を図り、時と場に応じたルールやマナーを守る児童の育成を目指す。(きまりを守る児童100%)	○児童・保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・交通ルール・学校のきまりを守る…児童93%、保護者90% ◇ 校内における廊下歩行や無言の場、校外における横断歩道の渡り方等についての指導をさらに充実させる必要がある。また、当たり前のことが当たり前にできるように習慣化(スリッパを並べる、名札の着用、時間を守る等)をさらに図っていく必要がある。	3.2	3.4	○自分からあいさつをするようになった。 ○あいさつ運動で見守りをする中で、児童が大きな声であいさつをしている。継続して取り組みたい。 ○自己評価が良いように、外部から見ても元気なあいさつが定着しつつあると思う。次は、校内の会釈に期待したい。 ○優しく素直な児童が多い。 ○児童の姿を観ると、学校の取組は良好である。 ○児童同士でのあいさつが、まだ足りないように思う。	
	2 あいさつ・会釈の啓発	気持ちのよいあいさつや会釈をすることができる児童が80%を超える。	○児童・保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・大きな声で気持ちのよいあいさつ、会釈…児童94%、保護者6% ◇ 社会委員会を中心とした各級級の輪番による「あいさつ運動」を実施し、児童が主体的にあいさつに取り組めるようにしたい。 ◇「木脇地区あいさつ大作戦」を継続して取り組み、児童のあいさつに対する意識を高め、地域でのあいさつにも広げたい。				
	3 思いやり(感謝や貢献の心)	思いやりのある言動ができると答えた児童(保護者)の割合が70%を超える。	○児童・保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・友達への優しさ・思いやりのある行動…児童95%、保護者89% ◇ 困っている友達に声をかけたり手伝ったりするなどの親切な行動が見られることもあるが、言葉遣いや名前の呼び方については課題が残る。その場での指導を確実に行うとともに、道徳教育並びに人権教育の充実とともに努めていく。				
たくましい子を育てる	1 体力や運動能力の向上	休み時間・体育の時間に、進んで体を動かしている児童が70%を超える。	○児童・保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・楽しく運動したり、外で運動したりしている…児童87.4%、保護者73.9% ◇ 個人の嗜好の偏りにより過ごし方が固定化している傾向もみられる。昼休みにほか遊びに意識が向きやすいように啓発を行う。長期休業中の体力向上も家庭との連携を図っていく。児童が積極的に体力向上に取り組みるように児童主体で企画を運営していく。	3.2	3.3	○昼休み時間の外遊びが、昨年より多くなった様で児童の声が聞こえるようになり、うれしく感じている。 ○児童主体で運営していく取組は、良いと思う。 ○運動会での一糸乱れずのパフォーマンスは、圧巻だった。それぞれ与えられた場所での作業を一生懸命しているのが、運動会を盛り上げる一因だった。 ○指導の効果ができていると感じる。 ○体育、休み時間を児童がとても楽しんでいる様子がうかがえる。特に昼休み、みんなで遊ぶ時には、職員も一緒に遊んでいるとのこと、児童も楽しんでようだ。 ◇児童の運動不足を感じる。 ◇夏のマスクは、いららないのではないかな。	
	2 健康的な生活習慣の確立(新型コロナウイルス感染症予防)	手洗い、うがい、消毒、マスク着用等の感染症予防や立願に努める児童が70%を超える。 メディアコントロールを含む基本的な生活習慣の確立に努める児童が70%を超える。	○児童・保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・手洗い・うがい、食後の歯みがき、マスク着用…児童91.1%、保護者77.8% ◇ 手洗い・うがい、マスク着用に関する児童の意識は低下している。次年度、養護教諭と連携した保健教育に力を入れていく。				
	3 食のマナーの徹底	食事のマナーを考えながら、食事ができる児童が70%を超える。	○児童・保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・食事のマナーを守っている…児童94.3%、保護者64.1% ◇ 「食事のマナー」については、児童と保護者・教師の間で評価のずれが大きい。家庭と連携しながら取り組む必要がある。引き続きばくばくデーで啓発を図っていく。				
開かれた学校をつくる	1 家庭や地域への情報の積極的な発信と共有	まちコミメール登録数を95%以上にし、常に情報発信を行い、共有できる体制作りをする。 通信やホームページの更新などを月1回以上定期的に行い、情報発信に努める。	○保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・学校は、お知らせや文書、通信等で、取組や児童の様子を伝えていく…89.6% 学校通信、年次通信、学校通信を定期的に発行し、児童や学校の様子を伝えることができた。また、修学旅行や宿泊学習の様子を随時ホームページにアップするなどの情報発信も行うことができた。しかし、日常的な様子をホームページで発信することができていないので、さらなる活用を目指していく必要がある。	2.6	3.3	○学校運営協議会での職員を交えたグループ協議は、とても実りがあると実感した。参加者全員が、どのようにすればもっと良くなるか、他に方法はないか等、意見を出し合う様子が、素晴らしいと感じ、ワクワクした。 ○あいさつ運動を主眼に推進されており、よい取組である。 ○地域、学校、保護者でよい関係ができており、よりよい木脇小のために頑張っていると思う。 ○学校ホームページは、分かりやすくまとめであり、読みやすい。 ○他機関とも連携がとれて、素晴らしいと思う。 ○保護者や地域全体に浸透するように、情報発信の方法を見直す必要があるのではないかな。 ◇地域、保護者への情報発信について、より積極的な活動を期待している。	
	2 コミュニティスクールとしての取組を核とした各種連携・協働の推進	学校運営協議会を中心として、地域と学校が目標を共有し、協働による活動を推進する。 コミュニティスクールと地域学校協働活動を一体的に推進し、地域人材の積極的な活用を図る。 キャリア教育に関心をもたせ、自分の将来について考えさせる。	○保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・学校は地域や保護者の方々と一体となって教育を進めている…75.9% 本年度も保護者や地域の方々と協力した学習を数多く行うことができた。また、学校運営協議会が中心となり、新たに参観後の児童の見守りや地域全体でのあいさつ運動も始まった。連携や協働は行っているが、アンケートでは、「分からない」という回答も多かった。今後、さらに情報発信を行っていく必要がある。				
	3 関係機関との連携	連携型小中一貫教育を推進する。 幼保小中連携や青少年育成協議会、社会福祉協議会等との連携・協働を行う。 前福祉保健委員、民生委員・児童役員、スクールソーシャルワーカー等との連携を行う。	○保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・学校は、中学校や関係機関と協力して活動している…67.9% 本年度も、中学校と連携したあいさつ運動や情報モラルについての研究、幼稚園保育園との連絡会等を行ってきた。また、特別支援教育コーディネーターが中心となり、支援が必要な児童について関係機関との連携を行ってきた。しかし、アンケートでは数値がそこまで高くなく、「分からない」という回答も25.6%もあるなど、取組への理解が広まっていないことを感じた。今後さらに関係機関との連携を深めていくとともに、理解の広がりをもつことを視野に入れていきたい。				
特別支援教育	1 教育的ニーズに応じた指導や支援の充実	学期に1回のアンケートで「学校が楽しい、どちらかと言えば楽しい」と答える児童が80%を超える。	○保護者アンケート結果で3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・学校は、常に児童理解に努め、児童の実態に応じた指導や支援を行っていますか・・・75.3% ◇ 目標数値を超えているので、超えるための手立てを考えていきたい。	2.4	3.0	○児童に寄り添った指導や対応をしていると思う。 ○個性を尊重する時代になってきたので、益々重要になると思う。これからも期待している。 ○楽しい学校を目指して手立てを考えられているところがすごい。 ○保護者の意識改革を。あらゆる組織に発信してほしい。	
	2 校内の支援体制や環境の充実	学期に1回のアンケートで「学習のことで困っていることがありますか」ではいと答える児童が20%を下回る。	○保護者アンケート結果で3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・教師間で連携をとって指導にあたり、支援ができる体制を作っていますか・・・65.5% ○保護者としては、昨年度よりも連携が取れていると感じている割合が下がっている。担任との連携を高める工夫をしていきたい。特に、不登校児童が増えてきているので、教師、保護者、関係機関を含めた支援体制を充実させていきたい。しかし、共通理解の場を設定するタイミングが難しい現状にある。				